



「一人ひとりの活躍と共生」がテーマ。また18年度の研究委員会報告書では、ホワイトカラーの労働生産性について加藤宣明会長（写真）は「技術が急速に進化する中、日本的な良さを残しながらも雇用形態は変化し、多様化が進む」と見解を述べた。

埼玉県からバイオマスプラスチックの普及を目指す。埼玉県内に事業所を持つ3社が国内企業にバイオマスプラを進めようと「エコ玉プロジェクト」を立ち上げた。6月に本格始動する。持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向け、埼玉を軸に全国へ発信していく。

（さいたま・石井 菜）

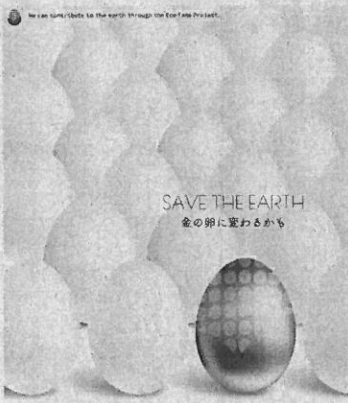
エコ玉プロジェクトを中心となつて進めるのは、食品や食品添加物の輸出・研究開発のサムライトレーディング（埼玉県桶川市）、緩衝材のカネパッキー（同人間市）、青果仲卸大手のベジテック（川崎市宮前区）の3

埼玉からバイオマスプラ

3社がスクラム

「エコ玉プロ」始動

社。サムライトレーディングがバイオマスプラの原料開発、カネパッキーとベジテックは原料販売とバイオマスプラを使った製品開発・販売を担当する。現在、SDGsに力を大企業や樹脂成形加工メーカー、県内の金融機関など39社が協



バイオマスプラスチックの取組みを通じてポストエコ玉プロを発信

SDGs 推進 全国へ発信

エコ玉は今後、名刺や社員証、飲食店のメニュー表などに使えるようシート化を進めつつ、工業製品にも参入していく計画。

サムライトレーディングは産業廃棄物となる卵殻を約60%使用したバイオマスプラ「ブラシエル」を開発し、第8回渋沢栄一ビジネス大賞を受賞している。同社の桜井裕也社長は「先陣を切つて今のうちに行けることをやっていく」、ベジテックの岩崎泰宏統括本部長は「成長率の高いアジアなど世界にも広めたい」、カネパッキーの高村賢二常務は「事業を通じて省資源化を実現していきたい」と意気込む。

中小企業・地域経済



シャチ

調遣 地域愛とモノづくりが結びつき、3月に復元された尼崎城の人気スポットになっている。

最優秀団体に初の専門学校

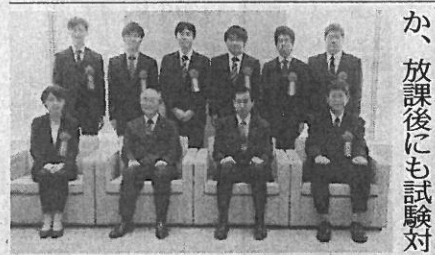
日商検定

日本商工会議所は4日、「2018年度各種検定試験最優秀者等表彰式」を実施した（写真）。3年度目の日商簿記検定最優秀団体は、津で受験した大原簿記医療観光専門学校津校チーム。1級を目指すクラスのメンバーでチームを編成、「夏休みや祝日のほか、放課後にも試験対策に励んだ」という。

最優秀者は、日商簿記149回が熊本で受験した大学生の奥村隆志郎氏、同150回が福島受験の大学生、栗山達也氏。リテールマーカーケイティンクは東京受験の会社員、谷口真彦氏。日商PCの文書作成は大阪受験の会社員、塚元裕加里氏、同データ活用は千葉・船

スペイン機関と覚書

EAふくしま再生エネで連携



【福島】エネルギーエージェンシーふくしま（EAふくしま）、福島県郡山市、服部靖弘代表、024・963・0121は、スペインのバスケットボールクラブスターとバスケットビルバオ市で連携覚書を結んだ。

風力発電や太陽光発電、スマートグリッド電、エネルギーマネジメント、水素での事業展開に向け相互の情報交換、両地域での産業、教育、研究分野でのプロジェクト創設への支援、両地域の企業、大学などへのネットワークキング支援などを進める。